

2 「みんなでできる、楽しく学べる体育の授業」を実践するために

(1) 器械運動との関連を考慮した「体ほぐしの運動」

器械運動の中には、日常生活ではなかなか体験できない動きがあります。体を動かして遊ぶ機会が少ない近頃の児童にとって、器械運動に親しみ、新たな技ができるようになるためには、十分にアナログン※1に触れておくことが大切です。そこで、器械運動のアナログンを含む「体ほぐしの運動」を考えてみました。

また、体育の学び方には、お互いの動きを見合うこと、教え合うこと、補助することなどがあります。このような学び方を身に付けさせるために、児童相互の関わり合いを深める動きも取り入れることにしました。

※1 児童が、まだやったことのない運動を行おうとする時に、その運動を思い浮かべることができる類似した運動のことです。

跳び箱運動のアナログンとしては、全体的な動きが類似している「馬跳び」、部分的に（踏み切り感覚が）類似している「ケンパー」などが挙げられます。

(2) 「体ほぐしの運動」を生かす指導計画の工夫

